

Cente Technical Information

発行番号	001-0019	Rev	第1版	発行日	2010/04/30
題名	ノンブロッキングコールをtcp_can_cep()でキャンセルできない現象について				
情報分類	障害情報				
適用製品	<ul style="list-style-type: none">•Cente TCP/IPv4 Ver.1.00 - Ver.1.31•Cente TCP/IPv4 SNMPv2 Ver.1.00 - Ver.2.11•Cente TCP/IPv4 SNMPv3 Ver.1.00 - Ver.2.10•Cente IPv6 Ver.1.00 - Ver.1.40•Cente IPv6 SNMPv2 Ver.1.00 - Ver.2.11•Cente IPv6 SNMPv3 Ver.1.00 - Ver.2.10				
関連資料	なし				
<p>【該当するユーザ環境】 以下の条件を全て満たす環境。 ・tcp_acp_cep()、tcp_acp_cep_ip46()、tcp_con_cep()、tcp_con_cep_ip46()のいずれかをノンブロッキングコールで使用している(第四引数にTMO_NBLKを指定している)。 ・それらのAPIをtcp_can_cep()でキャンセルしている。</p> <p>【障害内容】 tcp_acp_cep()の第四引数(タイムアウト時間)でTMO_NBLKを指定するとノンブロッキングコールとなり、着信完了時にコールバック関数が呼ばれます。 tcp_con_cep()も同様にTMO_NBLKを指定することでノンブロッキングコールとして動作させることができます。 これらのAPIを呼び出した後、tcp_can_cep()を呼び出すと着信待ちまたは接続待ちがキャンセルされるのが正しい動作ですが、実際にはキャンセルできません。 例えば、tcp_acp_cep() -> tcp_can_cep() -> tcp_con_cep() の順番に呼び出すと、tcp_con_cep()がE_OBJ(通信端点使用中)を返します。</p> <p>【発生理由】 ノンブロッキングコールの場合、tcp_can_cep()でユーザのコールバックルーチンを呼び出していましたが、通信端点の状態を初期化しておらず、本症状が発生していました。</p> <p>【回避方法】 ・ソースコードを変更し、上記シーケンスでも症状が発生しないよう修正する。 (変更箇所については、営業担当またはsupport@cente.jpまでお問い合わせください。)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					